

いただき様

N—SUGAR

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、「私」の体験談と考えたこと。

いただき様

目次

いただき様

私の昔の話をしてみていいかな？

いただき様って神様の話。ちよつと長い話の割にそんなに怖くも無いかもしれないんだけどね。

いただき様。

これは私の父方の祖父の住んでたN県の山里で祀られてた神様の話。正式名称があるのかは知らないんだけど、村では「いただき様」って呼ばれている神様が信仰されていたの。小さなお山のとつぺんにお社があつて、そこに祀られてたのさ。

なにぶん最後にその村行つたのが中1の夏なんでうる覚えではあるんだけどさ。毎年秋頃（10月くらい？）にそこに行くのと、ちよつどその村で収穫祭みたいな小さなお祭りをしてるのよ。いただき様にその年採れた畑の作物をお供えするってお祭り。その時期になるとお呼ばれされるって理由で学校を1週間くらいお休みできるから、当時の私には変な優越感があつて嬉しいお呼ばれだった。

で、私もお手伝いでおじいちゃんと母ちゃんと山にお供え物を持って行つただけどさ、まあ何せ、田舎の山道なもんだから道は狭いわ舗装はされてないわで最初は凄い疲れたのをよく覚えてる。その道すがら、お母さんから、「いただき様っていうのはねー、お山のとつぺんに住んでるからいただき様なのよー」って説明を受けた。山頂の頂がいただきって読むってことはその時覚えた。

それで、お山のとつぺんに小さな鳥居のついたボロつちい小さなお社があつて、その中にある御本尊様みたいな神棚的なやつの前に収穫物やその収穫物を使った料理（お米とか煮物とか揚げ物とか漬物とか色々）をお供えするんだよね。で、ひとしきりお祈りしたあと、山を下つてご近所さんで料理を出し合つてちよつとした宴会を開くって寸法よ。

中学上がつてすぐにおじいちゃんが死んじやつてからはお呼ばれすることも無くなつただけど、それまでは毎年秋になるとその収穫祭に呼ばれてお母さんと一緒に里山に行つてたわけ。

お社で豊作祈願のお祈りをしている時、当時小学生だった私は難しい祝詞とかは全く分らないから聞き流して忘れちゃってるんだけど、最後の方で村の地主さんが言ってた「いただき様、どうかもらってください」って台詞が妙に頭に残っていた。それで、小学生の私はよくその言葉を繰り返し使っていた。

収穫祭の手順は、まずお山の社にお供え物をして、その後3日間宴会をして、3日目にお供えした食べ物とかを、社の前で火で焚いて燃やすって感じなんだけど（その後どうすんのかは知らない）、別にそんなに畏まった儀式をしなくても、「いただき様」に「もらってもらう」儀式ってのは、常日頃何時でもしていいっておじいちゃんに言われてた。だから私もお遊び感覚で、おじいちゃんのうちにあった神棚（分霊ってやつ？）に向かって、適当な綺麗な石とかおもちやとかお菓子とかを並べては、「いただき様いただき様、どうかもらってください」って言うって遊んでたの。ただその時唯一おじいちゃんがきつく止めたことがあって、なんでもお供えしてもいいけれど、自分の大切なものはお供えしちゃダメだよ。そして間違っても、「自分」とか「他人」とかをお供えしちゃいけないよって言われてた。神様に取りられたら困るでしょって。普段明るくて優しいおじいちゃんがこの時はちよつと険しい顔をしてたから、私も緊張してこくこく頷いてたのを覚えてる。

ただ、そうは言っても好奇心旺盛なお年頃なんで、私はある時（小4くらい？）実験的に、おじいちゃんの家で飼ってた3匹の金魚のうちの一匹、ガラスの小鉢で1匹だけだったくろでめちゃん（黒のデメキン）をこつそりお供えしてみたのね。「いただき様いただき様、このくろでめちゃんを、どうかもらってください」って。

そしたら、4日後にそのくろでめちゃんは死んじゃってた。

偶然かもしれないし、くろでめちゃんをお供えしたことは怖くて誰にも言えなかったから、それが本当にいただき様に「お供え」された結果なのかはついぞ分からなかったけど、生き物が死ぬってのはやっぱり衝撃的で怖いことだった。それ以来私はいただき様に生きてるものをお供えするのはやめようと思った。とは言えもうその頃には

口癖みたいになつてたから、いただき様へのお供え自体を止めようとは思議と思わなかった。それからもおじいちゃん家に行くたびにお供え自体は続けてただけど、小5から小6にかけて行った「お供え実験」の結果はこんな感じだった。

・石ころのお供えは何も変わらない。

・おもちや（トミカやライダー人形や着せ替え人形）は心なし壊れるのが早かった気がする。（乱暴に扱ってたせいかも）

・食べ物のお供え物はちよつと判断が付きにくいけど、お供えしてから5日目に食べたおせんべいはしけてた。（再現実験をしてないからやっぱりなんとも言えない）

・引っこ抜いた花や雑草は直ぐに枯れた。（当然か）

結局小学生の行う実験なんかに大した意味は無かつたわけだけど。まあ、毎年秋にはそんなこともしながら専らおじいちゃんの家で漫画を読みながら過ごしていた。3日間は確実に宴会で美味しい料理が出るから（田舎料理だけど）楽しみにしていたのも変わらなかつた。

でも、中学一年の夏頃におじいちゃんが死んじゃつて、そのお葬式に呼ばれて以来その田舎に行くことも無くなつてしまった。おばあちゃんは私が産まれる前に亡くなつていたし、ほかの親戚はちよつと遠くなつちやうしで本当に縁が切れたつて感じ。お母さんもおじいちゃんが居ないのにわざわざ田舎まで帰るのも面倒くさいつて感じだった。だけど、その最後のお葬式の時に、ちよつと疑わしい会話があつた。

おじいちゃんのお葬式は普通にお線香上げてお経を唱えるタイプの仏教系のお葬式だった。私はお葬式なんて初めてだったから、お葬式が終わつた後、何となくでそこそこ話したことのあつた近所のおじいさんに、おじいちゃんはいただき様にお供えしないの？ つて聞いた。そしたらおじいさんは笑いながら、「そんなんお供えするわけねえさ」つて軽く答えた。私はそういうものなのかと思つて特にその後質問することもなかつた。

その後、村の近所の人達の会話を何となく聞いてると、「今年はどうも悪いことが続くなー」みたいな会話がされていた。よく話を聞く

と、数日前の大雨やら大風やらで農作物がやられて今年是不作になり
そうだと嘆いてた所におじいちゃんやんが死んじやって、近所の人達が落
ち込んでるみたいな話の流れだった。毎年ちゃんと収穫祭をしてる
し、私は参加してないけど、春頃に祈年祭みたいなこともしてるらし
い。なのに、いただき様は助けてくれないんだなーみたいなのを私が
ちよつと愚痴ったら、おじさんおばさん達は、

「まあ、大雨やらなんやらは、いただき様のせいではないし仕方ねえ」
って言って苦笑いしてた。

その時は特に何も思わなくて、そんなもんかって思ったけど。さ
て、今思い返すとこれはちよつとおかしいのでは？ と、気付いた。

いただき様の効能（権能？）が自然災害に敵わないとかだったら、
まあ、所詮迷信だし、伝統だし、みたいな感じで片がつく。

だけど、大雨やらなんやらがいただき様のせいでは無いって言い方
は、ちよつとおかしいのではと最近になって思った。

だってそうでしょう？ いただき様が豊穰の神様なんだったら、村
の天候やその他の災害の排除まで合わせていただき様の仕事ってこ
とになる。だけど、村が不作になっても、村の人はその不作はいただ
き様のせいではないという。

不作になってもいただき様に関係がないならいただき様を祈年祭
やら収穫祭やらで祀る意味が分かない。

で、先日お母さんに聞いたら、まあ、伝統なんてそんなもんでしょ。
と、大して気にする様子もなかった。というか、お母さんはいただき
様についてほとんど何にも知らなかった。

仕方ないので私はお母さんから村の知り合いの電話番号を聞き出
して、唯一おかあさんが知ってた、今おじいちゃんの家の管理をして
いる隣の山田さん（仮）の家に電話を試してみた。我ながら大した行動
力だと自画自賛している。

その結果分かったことは、「いただき様」がいわゆる祟り神ってやつ
だったってことだった。

山田のおばさんが言うことには、

・いただき様は昔、里山のものを片っ端から強奪していく妖怪変化

みたいなものだったという文献が残っている。

・村のご先祖さま達がお坊さんと呼んで、その妖怪変化と交渉を試みたところ、村の人達が捧げられるものを捧げてくれれば悪さはしないという方向で話がまとまった。くれるものが豪華なら他の悪いものから村を守ってやるとも。

・そして、当時その妖怪が巢食っていたお山のとっぺんにお社を立て、「いただき様」として妖怪を祀ることにした。いただき様にお供えをしているうちは平穏な年が続いたので、次第にいただき様は神様として扱われるようになった。

そんな話を聞いて、私は感心した。なるほどいただき様は本当に、ただ貰うだけの神様だったんだなって。そうしてみると、いただき様の名前も、山の頂つて意味も勿論あるんだろうけど、それよりかは物を頂くつて意味の方が強いんじゃないかなって思った。思ったので、その名推理を山田のおばさんに突き付けてみた。そしたらおばさんは、「そうかもねえ」って曖昧に笑った。ダメだ。あんまり決まらなかった。年取った大人はあんまり話に乗ってくれない。

そんなこんなで、今更知った知識を踏まえて小学生の頃の思い出を振り返ると、私の行った儀式の数々は、神とは名ばかりの妖怪変化に自分のおもちややお菓子やガラクタを捧げまくった日々だったんだなあと何だか微笑ましいような怖いようなイラつくようなよく分からない感情が浮かんでくる。

さて、現在私は大学生、未だ悪ガキ根性の抜けない私は、思いついた。

「いただき様」の儀式は、一応呪い避けとか豊作祈願としても成り立つけど、それはそれとしてやっぱり呪いなのでは？

オカルト板でたまに見る怖いやつと同じだ。

お供えしたら悪いものから守ってくれる。でもお供えするのはなんでもいいっていうのは、あまりにも無条件すぎる。おじいちゃんの注告に従えば、人間だったいただき様は頂いてしまいうんどうから。

YouTubeで見るオカルト板の話を見てつくづく思うのは、よくもまあうちの村はそんな神様相手にして人身御供的な物騒な考

えに至らなかつたもんだってことだ。妖怪側も農作物ちよつと恵んだだけで済ませてくれるとか優しすぎか？ まあ、いいんだけどね？

悪ガキ的には話がもうちよつとスリリングでもいいかなーとか思つてしまう。それとも調べたら何か陰惨な記録でも出てくるんだろうか？ 興味があるのでいつか再び村に行つてみようと思う。

話は取り敢えずこれで終わりなんだけど、最後のついでに思うのは、「いただき様」の効果範囲ってどこまでなんだろうってことだ。

お社とか神棚の前じゃないとダメなのだろうか？ それとも村の全域？ でめちゃんの例で考えると、供えたときは神棚の前だったけど、死んだ時は居間の棚の上だったからちよつとよく分からない。

ここからでも行けるのだろうか？ そう考えると何かの生き物で試してみたくなる。

祝詞は簡単。

× × ×
「いただき様いただき様、×を、×ももらつてください」

良ければみんなも試してみよう？